

従業員300名以上の企業で、本番環境のLinuxサーバーの
選定・運用に携わる情報システム・インフラ担当者に聞いた！

9割以上が、OSのサポート終了を理由に
計画より早いシステム更改・改修を経験

サーバー調達難時代における重要システムのLinux選定・延命に関する実態調査



社名	サイバートラスト株式会社
設立	2000年6月1日
所在地	〒107-6031 東京都 港区 赤坂 1-12-32 アーク森ビル31階
資本金	865 百万円（2026年3月31日現在）
上場証券 取引所	東京証券取引所 グロース市場
証券コード	4498(証券所属:情報・通信業)
代表者	代表取締役社長 北村 裕司
事業内容	・トラストサービス ・プラットフォームサービス ・サーバーソリューション ・IoT組込みソリューション



はじめに

サーバー機器の納期長期化や価格上昇により、企業は既存のサーバーやシステムを従来より長く使い続ける判断を迫られています。一方で、Linux OSの通常のセキュリティ更新の提供期間はディストリビューションや契約によって異なり、重要システムの利用計画が保守期間を上回るケースも生じています。

こうした状況を受け、サイバートラスト株式会社は、従業員300名以上の企業で本番環境のLinuxサーバーの選定・運用に携わる情報システム・インフラ担当者111名を対象に「サーバー調達難時代における重要システムのLinux選定・延命に関する実態調査」を実施しました。

調査の結果、93.6%が過去5年間にOSのサポート終了を理由として計画より早いシステムの更改やOSの移行・改修を経験し、67.5%が重要システムのOSのセキュリティ更新はシステムの更改予定より早く終了すると回答しました。また、今後3年以内の延命は97.3%が利用・検討しています。

本レポートでは調査結果の詳細を解説します。重要システムの更改計画やLinux OS選定の判断材料としてご覧ください。

- 調査主体

サイバートラスト株式会社

- 調査名称

サーバー調達難時代における重要システムのLinux選定・延命に関する実態調査

- 調査方法

IDEATECHが提供するリサーチマーケティング「リサピー®」の企画によるインターネット調査

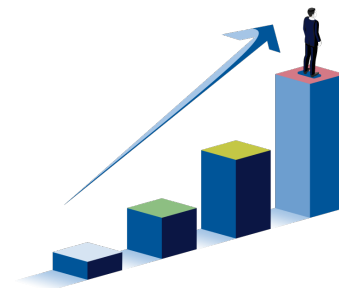
- 調査期間

2026年9月14日～同年9月15日

- 有効回答

従業員300名以上の企業で、本番環境のLinuxサーバーの選定・運用に携わる
情報システム・インフラ担当者111名

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。



サーバー調達難時代における重要システムの
Linux選定・延命に関する実態調査

調査結果



サーバー調達難時代における重要システムのLinux選定・延命に関する実態調査

1. 「調達難で費用超過と長期利用が進行」

サーバー調達で64.0%が価格上昇を経験。

その影響として「更改・調達の費用が想定を上回った」が63.2%、既存サーバーの利用長期化が51.9%。

2. 「OSの保守期間が更改計画を左右」

93.6%が、過去5年間にOSのサポート終了を理由として計画より早い更改・改修を経験。

また、67.5%がOS更新は更改予定より早く終わると回答。

3. 「延命の利用・検討は97.3%、課題は相談窓口」

延命を97.3%が利用・検討。課題の第1位は「障害が起きた際に、相談できる窓口がないこと」で48.6%。

4. 「選定基準の首位は修正提供の速さ」

Linux選定で最も重視するのは「脆弱性が見つかった際の修正提供の速さ」で50.5%。

5. 「AlmaLinuxは86.5%が利用中・候補」

AlmaLinuxは「具体的な候補となっている」が54.1%、「すでに利用している」が32.4%。

【Linux担当者が実感する重要システム運用へのサーバー調達難のインパクト】

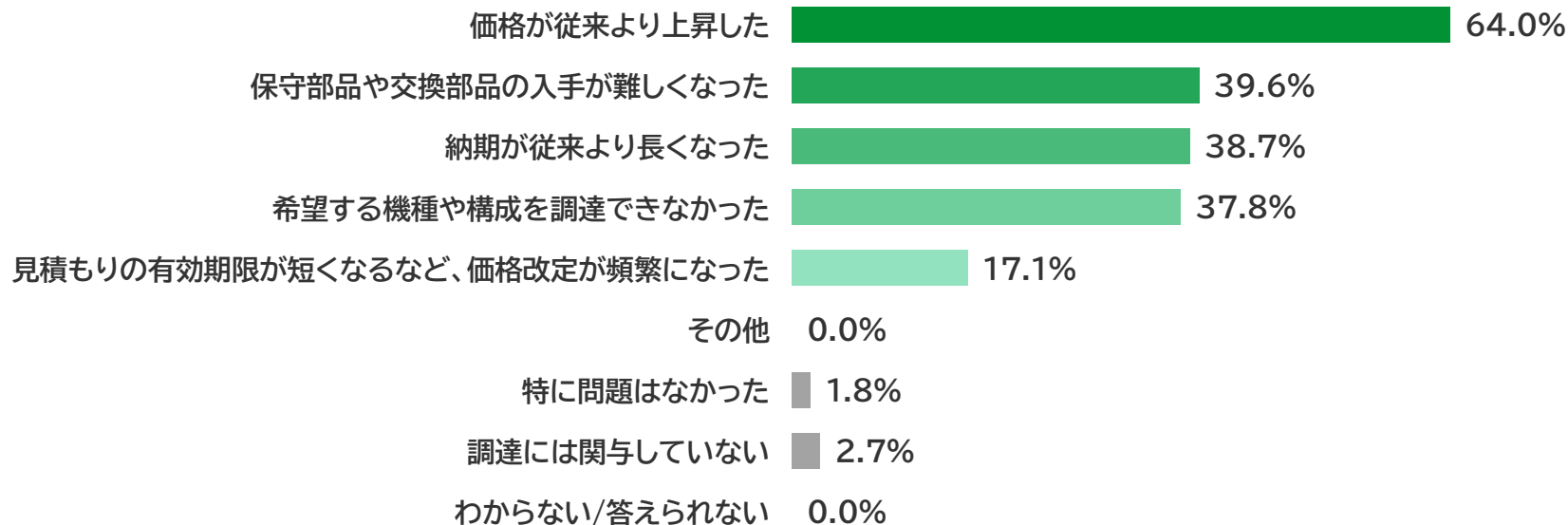
サーバー調達の価格上昇を64.0%が経験し、既存システムの利用長期化が進んでいる。一方で、67.5%はOSのセキュリティ更新が更改予定より先に終了すると回答し、OSのサポート終了を理由に計画より早い更改・改修を経験した層も93.6%に上る。延命を97.3%が利用・検討するなか、Linux選定では費用よりも修正提供の速さや相談できるサポート体制が重視されている。長期保守を見据えたOS選びが、重要システムを安定して運用するための前提条件となりつつある。

調査期間：2026年9月10日～同年9月15日

サーバー調達難時代における重要システムのLinux選定・延命に関する実態調査

Q1

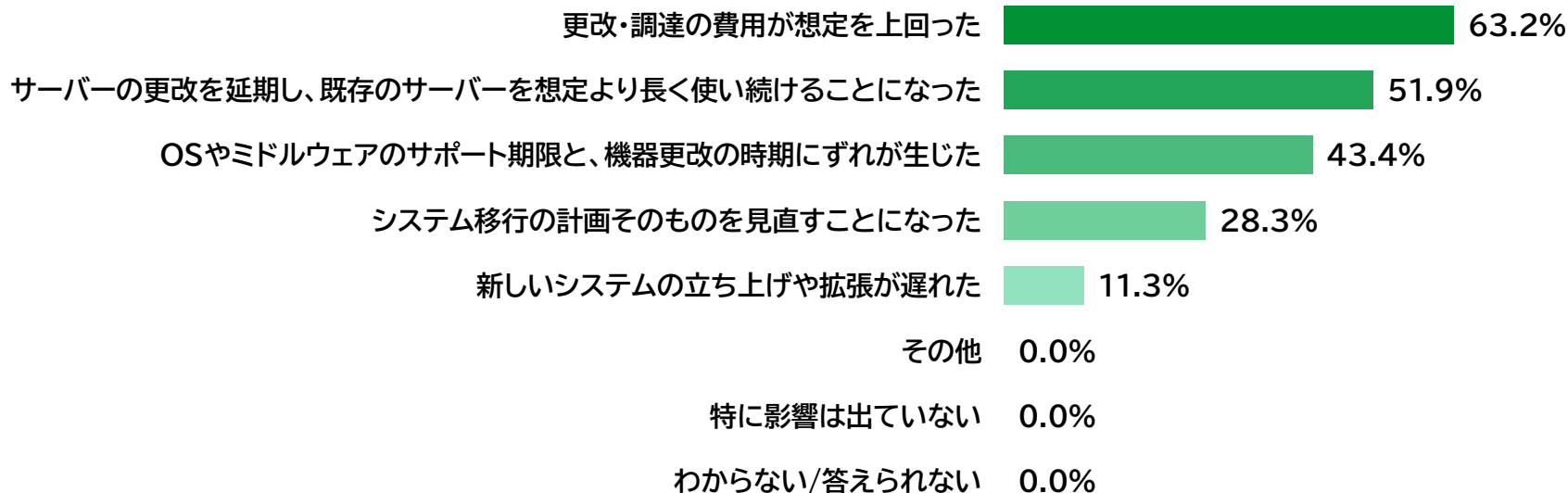
あなたのお勤め先では、過去1年間に、物理サーバーやサーバー周辺機器の調達において、次のような経験がありましたか。
あてはまるものを教えてください。(複数回答)



6割以上の担当者が、過去1年間でサーバーやサーバー周辺機器の調達において「価格が従来より上昇した」と回答しました。

Q2

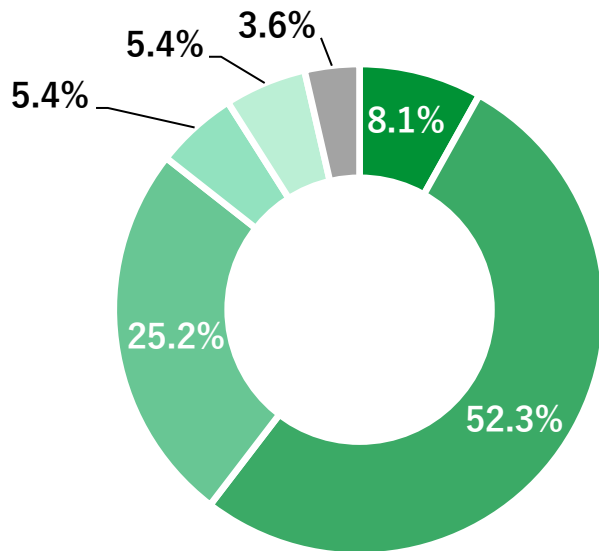
*Q1で「特に問題はなかった」「調達には関与していない」「わからない/答えられない」以外を回答した方への質問
こうしたサーバー調達の問題によって、既存システムの運用や更改に
どのような影響がありましたか。(複数回答)



調達の問題による影響では、
63.2%が「更改・調達の費用が想定を上回った」
ことを挙げました。

Q3

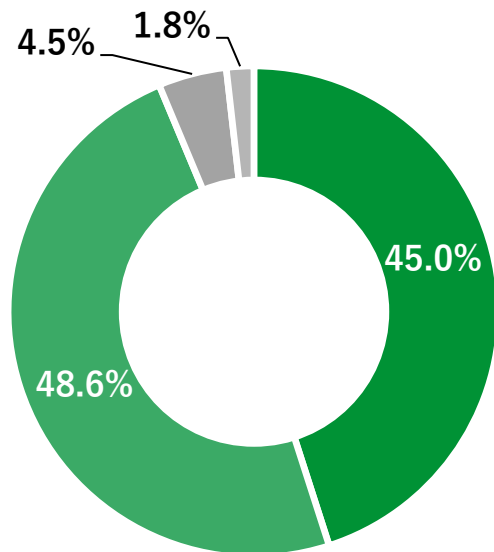
あなたのお勤め先でLinuxを利用しているシステムのうち、停止した際の影響が最も大きいシステム(以下、重要システム)について、稼働開始から更改までの総利用期間を何年程度と想定していますか。



重要システムの総利用期間は「5～7年程度」が52.3%で最も多く、「8年以上」も36.0%を占めています。

Q4

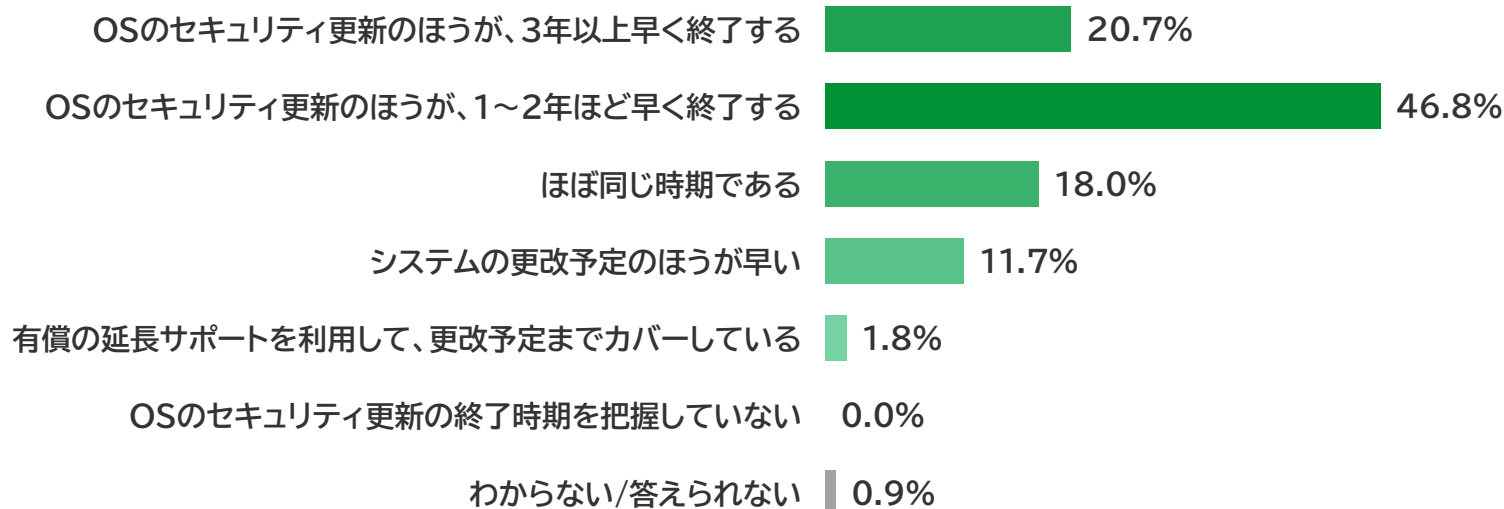
あなたのお勤め先では、過去5年間に、OSのサポート終了(EOL)を主な理由として、当初の計画より早くシステムの更改やOSの移行・改修を行ったことがありますか。



9割以上の担当者が、OSのサポート終了を理由に「計画より早い更改・移行・改修を経験している」ことが明らかになりました。

Q5

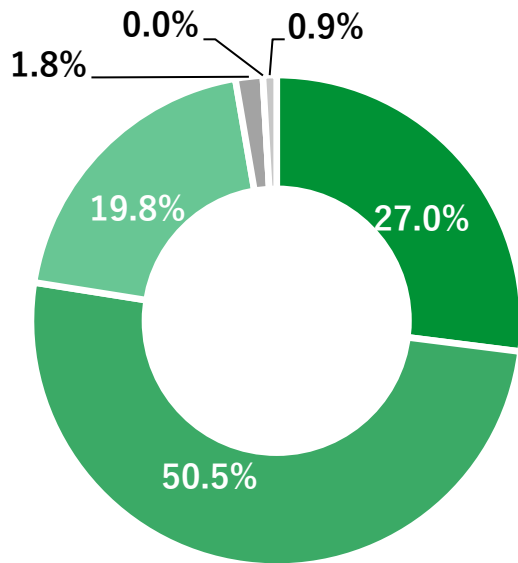
Q3でお答えいただいた重要システムについて、
利用しているLinux OSの通常のセキュリティ更新が終了する時期と、
システムの更改予定時期の関係を教えてください。



約7割が、重要システムのOSのセキュリティ更新は
「システムの更改予定より早く終了する」ことが
明らかとなりました。

Q6

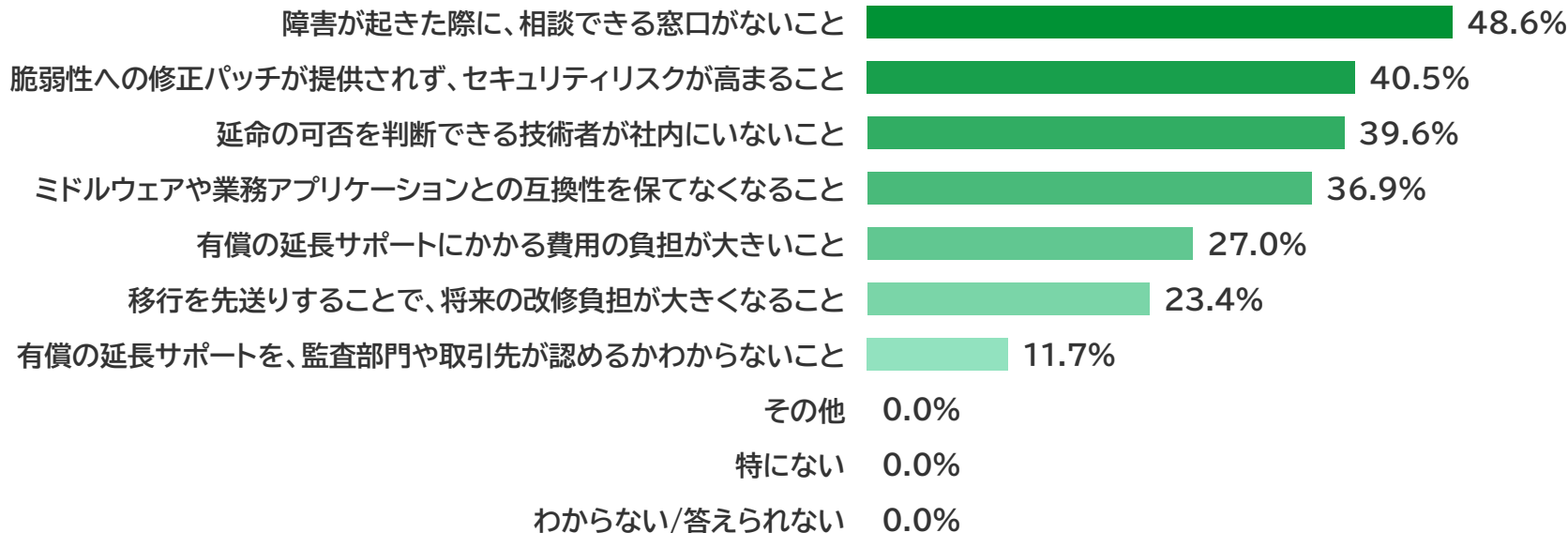
あなたのお勤め先では、今後3年以内に、Linux OSやOSSの通常のサポート終了後も、外部の事業者から有償でセキュリティパッチの提供や技術支援を受けながら、既存システムを継続して利用すること（以下、延命）を検討していますか。



- 27.0% すでに利用している
- 50.5% 具体的な利用予定がある
- 19.8% 候補の1つとして検討している
- 1.8% 検討していない
- 0.0% 利用する必要がない
- 0.9% わからない/答えられない

サポート終了後の既存システムについて
「具体的な利用予定がある」が50.5%、
「すでに利用している」が27.0%となりました。

Q7 あなたは、既存システムを延命して使い続けるとした場合、 どのようなことが課題になると思いますか。(複数回答)



延命時の課題では、
「障害が起きた際に、相談できる窓口がないこと」
が48.6%で第1位となりました。

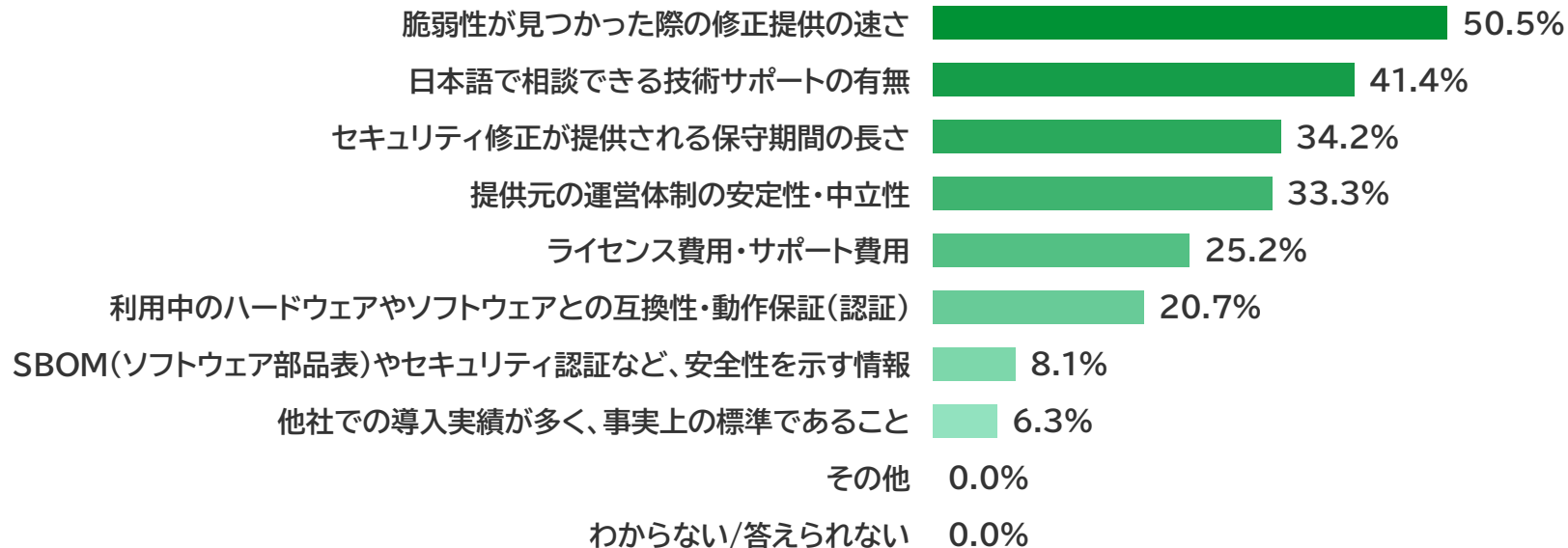
Q8

*Q7で「特にない」「わからない/答えられない」以外を回答した方への質問

Q7で回答した以外に、既存システムを延命して使い続けるとした場合の課題があれば、自由に教えてください。特にない場合は「特になし」とご記入ください。(自由回答)

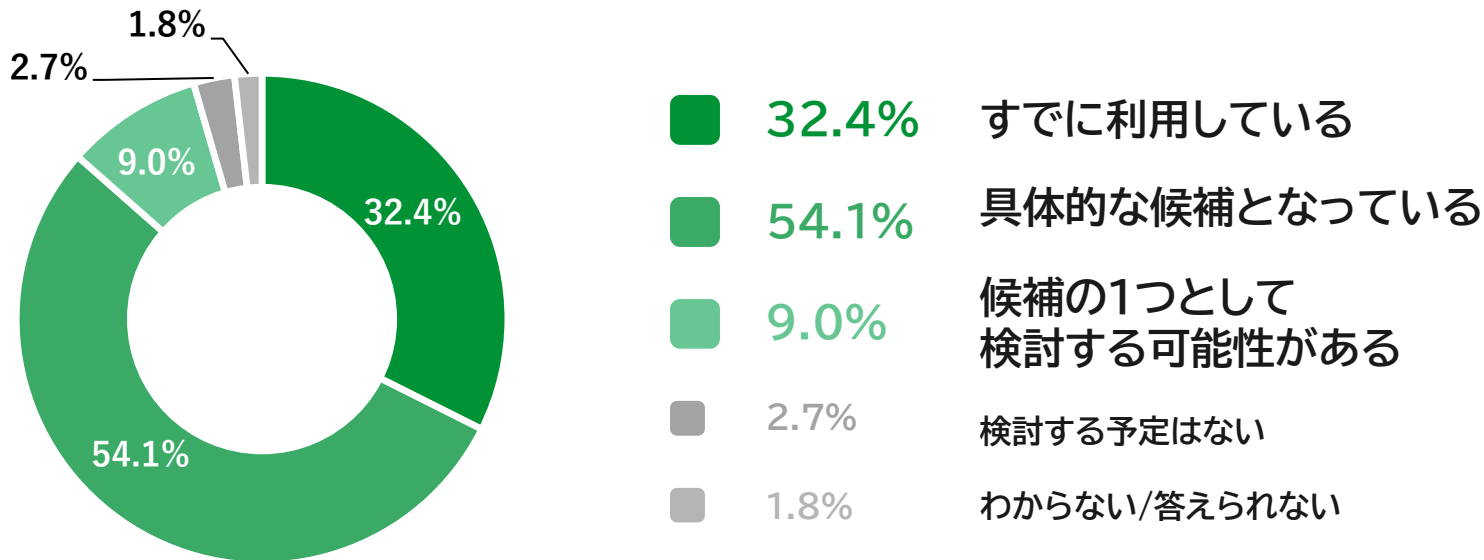
- 古いシステムを使い続けるのはリスクがある
- 急に使えなくなる機能があること
- セキュリティ面でのリスクが高まりそうなことです
- 物理的に破損する可能性が高くなる
- 最先端の技術の導入が遅れること
- ランニングコスト

Q9 あなたが、今後Linux OS(ディストリビューション)を選定・更改とした場合、重視することを教えてください。(上位3つまで回答可)



半数以上が、Linux OSの選定・更改時には、「脆弱性が見つかった際の修正提供の速さ」を重視することがわかりました。

Q10 あなたのお勤め先では、今後Linux OSを移行・更改する際に、AlmaLinuxを候補として検討する可能性がありますか。



AlmaLinuxについて、半数以上が「具体的な候補となっている」と回答し、32.4%は「すでに利用している」ことが判明しました。

サイバートラスト株式会社が考える
課題と対策



課題と求められる対策

課題

サーバー調達難によってシステムの利用期間が延びる一方、OSの保守期間はそれに追いつかず、Linux担当者は計画外の更改と延命の判断を繰り返し迫られている。

■ サーバー調達で「価格が従来より上昇した」が64.0%に上り、影響として「更改・調達の費用が想定を上回った」が63.2%、既存サーバーの利用延長が51.9%に達するなど、調達難が更改計画そのものを揺さぶっている。

■ 重要システムの総利用期間を8年以上と想定する層が36.0%を占める一方、OSのセキュリティ更新が更改予定より早く終了するとの回答は67.5%に上り、システムの利用期間とOSの保守期間の間にずれが生じている。

■ OSのサポート終了を理由に計画より早い更改・移行・改修を経験した層は93.6%で、「3回以上ある」も45.0%に上るなど、OSの保守期間に合わせた想定外の対応が繰り返し発生している。

■ 延命を利用・検討する層が97.3%に達する一方、課題として「障害が起きた際に、相談できる窓口がないこと」を48.6%、「脆弱性への修正パッチが提供されず、セキュリティリスクが高まること」を40.5%、「延命の可否を判断できる技術者が社内にはいないこと」を39.6%が挙げており、延命を支える体制が需要に追いついていない。

対策

長期の修正提供と国内サポートで延命リスクを抑える

Linux選定では「脆弱性が見つかった際の修正提供の速さ」を50.5%、「日本語で相談できる技術サポートの有無」を41.4%が重視し、いずれも「ライセンス費用・サポート費用」(25.2%)を上回った。延命の課題に挙げた相談窓口や修正パッチの不在と直結する要素だ。利用計画とOSの保守期間を突き合わせ、長期の修正提供と国内で相談できる延長サポートを備えたOSを選ぶことが、延命と計画的な移行の両立につながる。

ゆるぎない IT 基盤を 世界標準の Linux で | AlmaLinux OS



AlmaLinux OS は、Red Hat Enterprise Linux と完全バイナリ互換でありながらライセンス費用がゼロの企業向け Linux です。非営利財団が 10 年間のサポートを保証し、ベンダーロックインなく自由に IT 基盤やクラウド環境を構築できます。

▼AlmaLinux が選ばれる理由

- 01 | コミュニティによる透明性: RHEL からのシームレスな移行、SBOM によるソフトウェアサプライチェーンの透明化
- 02 | 安定したコミュニティ体制が提供する長期サポート: 世界中の企業・団体から支えられた体制で独立したガバナンスを確保し、長期間のセキュリティ修正を提供
- 03 | 重要インフラ基準のセキュリティ: FIPS 140-3 対応、セキュリティパッチの迅速な提供など、日本の政府機関・インフラ系入札要件にも対応

詳しくはこちら: <https://www.cybertrust.co.jp/almaLinux/>

サイバートラストとは？



安心・安全なデジタル社会を実現する デジタルトラストを提供します

サイバートラストは、日本初の商用電子認証局として 2000 年より提供している認証・セキュリティの技術を活用したトラストサービスと、Linux のカーネル技術やオープンソースソフトウェア(OSS)の知見を応用したオンプレミス、クラウド、組込み領域向けのプラットフォームサービスを展開しています。また、これらの技術や実績を組み合わせ、IoT をはじめとする先端分野に向けて、「ヒト・モノ・コト」の正しさを証明し、お客様のサービスの信頼性を支えるサービスを推進しています。

企業情報 →

<https://www.cybertrust.co.jp/corporate/>

事業内容 →

<https://www.cybertrust.co.jp/business/>

本調査利用方法

本資料に掲載されている会社名および商品・製品・サービス名(ロゴマーク等を含む)は、各社の商標または各権利者の登録商標です。

<利用条件>

1. 情報の出典元として「サイバートラスト株式会社」の名前を明記してください。
2. ウェブサイトで使用する場合は、出典元として、下記リンクを設置してください。

URL: <https://www.cybertrust.co.jp/>

お問い合わせについては、下記にご連絡ください。

サイバートラスト株式会社 マーケティング本部
E-mail: oss-contact@cybertrust.co.jp